

令和5年度 自己評価 結果

学童保育を行う上で重要な「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」についてあらためて意識を高め、自らの保育を振り返ることを目的に、今年度の自己評価には、学童における人権教育の取組を点検・評価するための「人権感覚チェックリスト」（奈良市）を用いました。

自らが意識をせずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合ですすめる保育」を行っていないかの自己点検の機会としました。結果を踏まえてより良い保育の質の向上に努めます。

否定的な言葉を使わず、子どもの自主性を重んじ、1人の人として大切にされることが子どもの人権を尊重する基本だと思います。子どもの人権を尊重していくためには、常に子どもの立場になって考え、保育者も一緒に悩むことがとても大切だと思います。そして、子どもの人権に配慮した丁寧な保育を心がけていきます。

今回学童支援員4名、補助員1名、合計5名が回答し、集計しましたので、結果を公表いたします
「人権感覚チェックリスト」…

保育中

○適切な保育	
①子どもや保護者の一人一人と気持ちよく挨拶をしている。	5
②挨拶をかわしながら、様子や健康状態を視診している。	5
③保育室や園庭の安全確保に努めている。	5
④子どもの良さを積極的に見つけ、認めたり励ましたりしながら自信をもてるようにしている。	5
⑤子どもの意見や発想を受け止め積極的に保育にいかしている。	2
⑥基本的な生活習慣が身に付きやすい環境づくりに努めている。	4
⑦子どもの思いや考えを伝えるようにしている。	5
⑧動物や植物を大切にしている。	5
⑨様々な人とかかわる機会をもつようにしている。	5
□不適切な保育	
⑩名前を「ちゃん、くん」等、区別して呼んでいる。	1
⑪特定の子どもの声をかけることが多い。	0
⑫男女に分けて行動させることが多い。	0
⑬服装や髪形、持ち物を自分の好みでほめることが多い。	0
⑭教師が一方的に話すことが多い。	0

*⑤以外は適切な保育に努めている。今後は⑤についても努力したい。

会議研修

○適切な保育	
⑮意見や考えを自由に発言できる雰囲気がある。	3
⑯発言している人の思いや考えを受け止めながら聞いている。	5
⑰特別支援を要する子どもの実態を把握し、支援方法について共通理解している。	5
□不適切な保育	
⑱ものごとを決めつけて考えたり話したりしている。	0
⑲研修会への参加に消極的である。	1

*聞くことはできても、発言に関しては努力を要する。発言しやすい雰囲気を心がけたい。

職員室

○適切な保育	
⑳他の職員と協力して仕事をしている。	5

②職員間で子どもの様子や問題を話し合っている。	5
②名簿は男女混合にしている。	4
□不適切な保育	
③物事を話し合うことなく、自分で決めている。	0
④個人情報にかかわる文書等を机の上に置いたままにしている。	0

*職員間でよく話し合いができています。このよい雰囲気を継続していきたい。

保護者とのかかわり

○適切な保育	
⑤個人情報にかかわる文書は、封筒に入れて渡している。回収にも気を使っている。	4
⑥子どもの気になる様子や頑張っていることについて常に保護者と連絡をとりあっている。	4
⑦わかりやすい文書や手紙を作成するよう心掛けている。	3
⑧写真や作品の公開、名簿や連絡網作成について、保護者に承諾を得ている。	3
□不適切な保育	
⑨家庭状況の違いで子どもや保護者への接し方が異なっている。	0

*職務分担の違いもあり、数字が低い項目もあるが、各々は保護者との関わりもしっかりとっている。

児童・生徒指導についての自己チェックシート

1 子どもとの関係作り	A	B	C
① どの子にも、笑顔で挨拶するなどの声かけをしている	5		
② できるだけ子どもたちと過ごす時間をつくるようにしている	2	3	
③ 子どもの好きなことや得意なこと、夢中になれることなどを把握している		4	1
④ 「しっかり！」などの曖昧な表現よりも、「具体的な行動」を指示している	2	3	
⑤ どの子にも丁寧な言葉使いで接し、子どもの話を最後まで聴いている	2	3	
⑥ 自分が間違ったときは、子どもに対しても「ごめんね」などと謝るようにしている	5		
⑦ どの子にも、「ありがとう」「助かったよ」などの感謝の言葉を伝えている	5		
2 子ども適切な行動に着目する			
① どの子にも適切な行動をした時には、「できているね」などと声かけをしている	4	1	
② 目立たなくても適切に取り組む子どもに着目し、肯定的な声かけをしている	3	2	
③ 子どもの興味や目標を把握し、「がんばっているね」などと応援している	3	2	
④ 昼食準備や清掃などの活動を子どもとともにやり、肯定的な声かけをしている	4	1	
⑤ 提出物を返却する際には、肯定的な言葉をかけている	2	3	
3 生活規律やルールの定着			
① 時間通りに始めるなど、自ら子どもたちのモデルとなるよう行動している	4	1	
② 「～してはいけない」よりも、「～しよう」という声かけをしている	1	3	1
③ 集団の中で適切な行動をしている子どもを認め、全体のモデルとしている	4	1	
④ 不適切な行動をしたときは、適切な行動が何かを子どもに問いかけて確認している	1	4	
4 観察と連携した対応			
① 子どもの表情や仕草、他者との関わり方などを観察し、変化をとらえている	2	3	
② 共同作業になかなか取り組めない子どもでも、参加できる場面を用意している	3	2	
③ 他者との関わりが薄い子どもに、意図的に話しかけている	2	3	

④ 遅刻や欠席の多い子どもについては、職員・家庭などと連携し早めに対応している	1	4	
⑤ 子どもの変化について、職員間で情報共有を図り対応を検討している	4	1	
5トラブルや問題行動への対応			
① 「何をやっているんだ！」よりも「どうしたの？」とまず子どもの話を聴いている	3	2	
② 問題解決の優先順位を職員間で共有している	3	2	
③ 問題行動を発見したら、他の先生や管理職にすぐ連絡している	5		
④ 三日間欠席が続いた場合は、家庭に連絡などをして本人の様子を把握している	3	2	

【考察】

*どの項目も概ねできていると思う。ただ、子どもとの関係づくりの③に関してはまだまだ、子ども一人一人をしっかりと観察していく必要がある。

*子どもの変化にはいち早く気づき、職員間で共有し、対応を検討するなどよくできている。

*家庭との関わりに関しては全員というより、主任・副主任が対応することが多いが、そのことについても職員間の共有は図れている。

◎全体的に職員一人一人、研修を通して子どもや保護者との信頼関係を第一に毎日の保育に努めている。今後もさらに職員一丸となって、安心して安全に過ごせる学童を築いていきたい。